中国技術事務所だより 2020.12.11号

地域の暮らしのために
（確かな技術を支える若手技術者の育成に向けて）

11月25日（水）に、広島市「新規採用職員（土木・造園）現場実習」の方（21名）が、技術職員としての専門的な技術の伝承と技術力の向上を図ることを目的に、「バリアフリー体験」、「実橋教材モデル」、「橋梁下部工モデル」、「函渠モデル」、「災害対策用機械」の体験学習を行いました。（コロナ対策として2班に分けて実施。）

「バリアフリー体験　車いす・シニアカー（電動補助車）」

【歩車道段差・スロープ（傾斜路）体験】

車いすで0,1,2cmの段差を体験

下りは補助者を信頼して後向きに下ります。

シニアカーの仕組み・補助と、交通バリアフリーから心のバリアフリーの流れを学びます。

【感想】 F氏
・視覚障害者の方の誘導ブロックや段差が車椅子にとって障害になってしまうことを知り、誰にでも優しいものを作ることは難しく、考えることが大事だと知ることができました。

「実橋教材モデル」

【「厚東川大橋」】

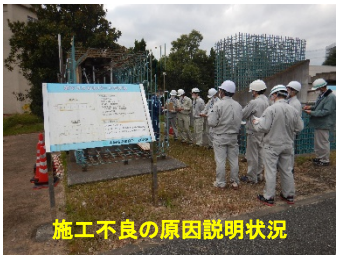
橋梁損傷状況説明

Co桁（外部）打音点検実施

Co桁（内部）打音点検実施

【感想】 M氏
・橋梁点検の体験ができ、橋梁の損傷具合を音で見分けられることがわかりました。
　今後、業務の中で橋梁の補修など係ることがあると思うのでこの経験を活かしていきたいです。

「函渠モデル（不具合コンクリート）」


施工不良の原因説明状況

施工不良箇所の確認状況

施工不良箇所の確認状況

【感想】 F氏
・ボックスカルバートの劣化や施工不良を実際に見ることができたので、とても勉強になりました。日頃の生活の中でもそういう視点を持って公共物を見てみようと感じました。

「災害対策用機械」見学

【全景】

納入されたエアーテント見学

【対策本部車（拡張型）】

内部見学状況

【排水ポンプ車】

操作盤説明状況

【感想】 U氏、N氏
・普段見ることができない車両を見学し、イメージを膨らますことができました。
・通常時には見ることのできない重機等を見ることができ、どういう状況で用いられるか機能等を知ることができました。